

登録コード	T5007200	開講年度	2026			
授業科目	建築環境工学（16T以降）				担当教員	南 健斗
英文授業名	Architectural Environmental Engineering 2				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学生
講義室	工C3-301教室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】			【授業の達成目標】		
	2 5 Tカリ，2 3 Tカリ					
	【22T～】共通教育による幅広い教養と，工学の専門分野における基礎学力が身に付いている。			建築環境工学を構成する幅広い項目を理解し，物理や数学などの工学基礎学力に基づいて計算をすることができるようになる		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース					
(4)授業の概要	建築環境工学の領域の中で、換気と湿気、快適条件を学ぶ。 ・ 建築環境工学の基礎的内容を理解し、建築設計に反映する。 ・ 身のまわりの環境問題について、改善方法を検討できる。 ・ 建築物により形成される環境を、定量的に予測検討できる。 居心地のよい建物空間を設計する為に、物理や数学に立脚した検討手法を習得する。予習復習を十分に 行い、理解に努めること。また、身の回りで目にする現象とのつながりも深いので、普段から意識する ことも大切である。 建築実務の諸問題の解決について、事例や演習を通じて講義を行う。					
(5)授業計画	第1回 ガイダンス、換気：必要換気量 第2回 換気：圧力と圧力差 第3回 換気：換気計算の基礎式、換気計算法 第4回 換気：換気計画、自然換気量の測定、気密性と換気量 第5回 換気：通風、風環境 第6回 湿気：湿り空気 第7回 湿気：材料の含湿特性、壁の透湿と結露 第8回 湿気：室内の湿度 第9回 湿気：結露とその防止 第10回 快適条件：快適な環境とは、温(冷)熱環境の快適指標 第11回 快適条件：温(冷)熱環境の快適指標 第12回 快適条件：測定器と測定法 第13回 快適条件：測定器と測定法 第14回 授業内容のまとめ 第15回 演習問題、授業アンケート					
(6)成績評価の方法	成績評価は授業内での課題(20%)および期末試験で評価する(80%)。講義に出席し、期末テストを受けなければ単位は取得できない。					
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。					
(8)事前事後学習の内容	事前事後学習は、計30時間を行う。毎回の講義の最後に予習内容を伝える(事前学習)。また授業内容を復習すること(事後学習)。					
(9)履修上の注意	授業までに教科書を読み、不明な点を明確にすること。					
(10)質問,相談への対応	講義中、および講義の前後に随時受け付ける。 メールによる質問・相談はminami@shinshu-u.ac.jpに連絡すること。					
(11)その他	本講義はアクティブ・ラーニングによる学習法が含まれており、学修者の能動的学修により、教養や知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。					
【教科書】	田中俊六ほか：最新 建築環境工学 改訂4版，井上書院,2014，3300円(税込)					
【参考書】	特になし					